

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽西中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 157人

② 数学 156人

#### 5 留意事項

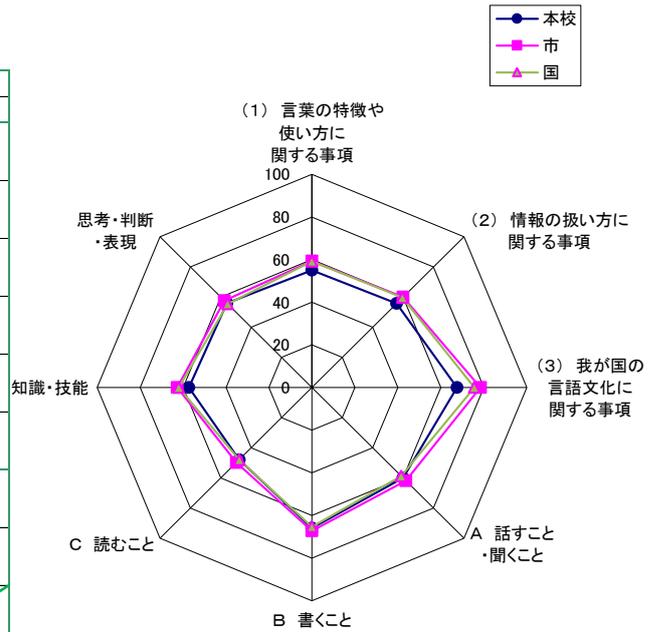
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立陽西中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	55.0	59.3	59.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	55.7	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	67.5	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	59.9	61.8	58.8
	B 書くこと	65.9	67.2	65.3
	C 読むこと	47.9	49.7	47.9
観点	知識・技能	57.3	62.7	62.0
	思考・判断・表現	55.9	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

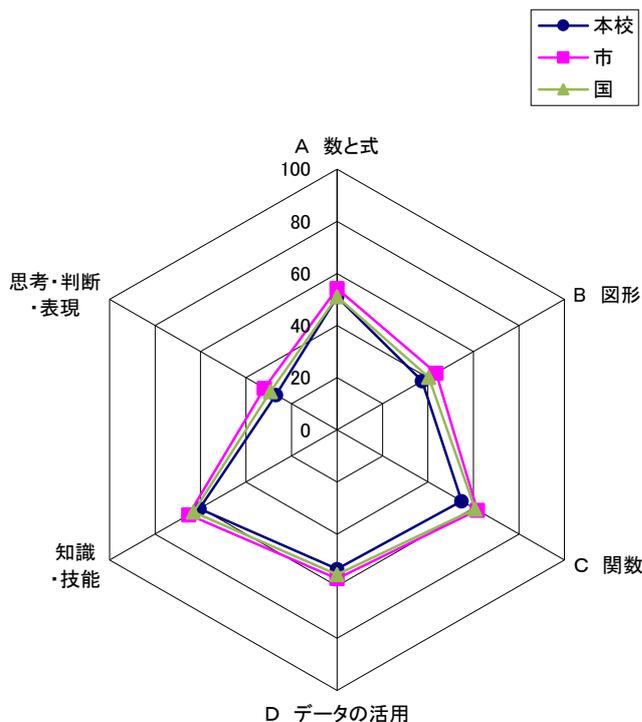
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、全国の平均を4.2ポイント、市の平均を4.3ポイント下回った。 ●文の成分の順序や照応について理解しているかをみる問題では、栃木県より0.8%低い。また、文脈に即して漢字を正しく書くことが出来るかどうかをみる問題では、栃木県より3.9%低い。表現の技法について理解しているかどうかをみる問題では、6.1%低い。	・文の成分の順序や照応について理解させるためには、作文指導の際に、文の成分の順序を意識させ、整理された文になるように書く練習を取り入れながら指導していきたい。 ・漢字を正しく書けるように、意識して書くポイントを示し練習させる。 ・表現技法を理解させるためには、教科書の文章の中に使われている箇所を使って説明し、表現技法を使った場合の効果を考えさせていきたい。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、全国の平均を3.9ポイント、市の平均を4.3ポイント下回った。 ●意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題では、栃木県よりも4.4%低い。また、具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかをみる問題では、栃木県よりも4%低い。	・話し合い活動の際に、意見と根拠、具体的な情報と抽象的な情報の区別をしながら話を聞くように指導していきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国の平均を8.1ポイント、市の平均を10.9ポイント下回った。 ●行書の特徴を理解しているかどうかをみる問題では、栃木県よりも7.9%低い。	・書道の授業では、お手本を模写するだけでなく、筆の運び方が分かるように実際に見せながら見本を示し、書く時のポイントについて丁寧に説明しながら授業を行ってきたい。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国の平均を1.1ポイント上回り、市の平均を1.9ポイント下回った。 ○資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝えるように話すことができるかどうかをみる問題では、栃木県より2.8%高い。 ●必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題では、栃木県より1.1%低い。	・話を聞く際に大切な事項を再確認しながら、話を真摯に聞く態度を身につけさせたい。必要などころはメモを取らせ、分からないところや深く聞いてみたいところは、質問しながら内容を捉えさせる姿勢を身につけさせていきたい。
B 書くこと	平均正答率は全国の平均を0.6ポイント上回り、市の平均を1.3ポイント下回った。 ○表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題では、栃木県よりも1.1%高い。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題では、栃木県よりも2.8%低い。	・文章を書く際に、集めた材料を整理し、一番伝えたいことは何かをはっきりさせたい。また、目的や意図に応じて、伝えたいことが読み手に伝わるように、書くときのポイントを具体的に指導していきたい。
C 読むこと	平均正答率は、全国の平均と同じで、市の平均を1.8ポイント下回った。 ○文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問題では、栃木県よりも2.7%高い。 ●目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題では、栃木県よりも4.1%低い。	・目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるように、キーワードになる言葉を探させ、記述式の問題を解かせるようにしたい。また、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示を区別できるように注意して読み取りを行わせていきたい。

# 宇都宮市立陽西中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	51.0	54.2	51.1
	B 図形	37.4	43.6	40.3
	C 関数	54.8	61.7	60.7
	D データの活用	53.4	57.1	55.5
観点	知識・技能	60.5	65.2	63.1
	思考・判断・表現	26.8	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率は、全国の平均を0.1ポイント、市の平均を3.2ポイント下回った。</p> <p>○連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題では、文字の表し方(偶数の表し方)が身に付いている生徒が多い。</p> <p>●全体を通して市、全国と比較して、無回答率が多い。</p>	<p>・連続する二つの偶数を文字式で表す例をいくつか用意し、解き方のパターンを指導していきたい。また、授業の中で小テストのような形式で、数字を変えた類似問題を定期的に解かせ、問題に慣れさせていきたい。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国の平均を2.9ポイント、市の平均を6.2ポイント下回った。</p> <p>○事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる問題では、正答率が市、全国と比べて高い。</p> <p>●筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題では、証明の正答率が低い。(部分的な回答も含む)</p>	<p>・証明に対する苦手意識を変えていく必要があるので、証明の手順について改めて構造的に順序をよく理解できるように指導していきたい。</p> <p>・記述形式になったときに理解できているかはわからないが、角度を求めることに対して得意な生徒が多い。これを証明などの記述式問題にも生かしていきたい。</p>
C 関数	<p>平均正答率は、全国の平均を5.9ポイント、市の平均を6.9ポイント下回った。</p> <p>●二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題では、イの誤答が多い。</p> <p>●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題では、アでの正答率が1.9と低い一方、グラフでの正答率は市、全国と比べてもほぼ変わらない。</p>	<p>・基本的なグラフの読み取り方やかき方の復習、理解、練習を行う必要がある。</p> <p>・関数の問題を解くときに表、式、グラフを関連付けて考えられるよう指導を展開していく。また、問題の状況と式、グラフとが一致していない。多くの問題に触れ、1つ1つを理解していく必要があるため、授業の中に類似問題を解く機会を設けていきたい。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国の平均を2.1ポイント、市の平均を3.7ポイント下回った。</p> <p>○複数の集団のデータ分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題では、各四分位数に着目できている生徒がいる。</p> <p>●箱ひげ図の箱に着目できている生徒が少ない。</p>	<p>・用語や基礎的な知識の復習による理解度の向上を図る。</p>

宇都宮市立陽西中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」という質問に対して、全国や県の肯定的な回答の割合より約10パーセント上回っている。今後も教員が和やかな雰囲気を作ることを心掛け、個に応じた指導を行っていく。

○「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」という質問に対して、全国や県の肯定的な回答の割合と比べて、全国については約2%上回っており、県については同じくらいである。このようなことから自分の考えを効果的に伝えることが得意な生徒が多いということが見てとれる。今後も授業の中に自分野考えを効果的に伝えるための活動を多く取り入れ、良いところを伸ばしていきたい。

●「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、機械式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。」という質問に対して「4時間以上」と回答した生徒の割合が、全国については5%、県については約6%上回っている。また、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。」という質問に対して、「4時間以上」と回答した割合が、全国より約7%、県より約9%上回っている。このことから、本校の生徒は、1日の家で過ごす時間をゲームやSNSや動画視聴などに使うことが多い傾向にある。今後は、SNSの使い方や放課後の時間の使い方についてアドバイスしていきたい。

●「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。」という質問に対して「3時間以上」と答えた生徒の割合が、全国や県に比べてやや下回っている。このことから1日あたりの家庭学習の時間がやや少ない傾向がわかる。今後は、家庭学習の時間を確保し、習慣化していけるように、働きかけを行っていく。

宇都宮市立陽西中学校 (第3学年)  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「分かる授業」の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語科におけるT・Tや習熟度別学習の効果的な指導</li> <li>・小集団内でのグループ活動</li> <li>・1時間ごとのねらいとふりかえりの提示</li> <li>・一人一台端末(タブレット)の効果的な利用</li> <li>・定期テスト前の質問学習の実施</li> <li>・レベルアップ学習の実施</li> <li>・夏休み学習サポートの実施</li> </ul>	<p>○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」という質問に対して、市や県の肯定的な回答の割合より市については約10%、県については、約15%上回っている。</p> <p>○「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」という質問に対して、市や県の肯定的な回答の割合と比べて市については同じくらい、県については約2%上回っている。</p>

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家に帰ってからの過ごし方に関する質問項目において、ゲームやSNS、動画視聴にかける時間が市や県より上回っている。</li> <li>・家庭学習にかける時間に関する質問項目が、市や県の肯定的な回答より下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習のやり方を示す。</li> <li>・「家庭学習強化週間」を実施し、定期テストに向けて学習計画表を立てさせ、保護者のコメントをもらって提出させる。</li> <li>・学習だよりで自主学習ノートまとめ方を紹介する。</li> <li>・各学年の廊下に見本となる自主学習ノートのコピーを掲示し、参考にさせる。</li> <li>・自主学習ノートは、毎日点検し、内容を充実させるようにアドバイスを行う。</li> </ul>